

国際会議報告

国際会議印象記

第 3 回 SCANINJECT*

浅井 滋 生**

1983年6月15日から17日までの3日間、表1のとおり各国から342人の参加者を得て、第3回のSCANINJECT (3rd International Conference on Refining of Iron and Steel by Powder Injection) がスウェーデンのルレオ (Luleå) で開催された。日本人の参加者は欧州駐在員の方々を含め、合わせて12名であった。

ルレオはスウェーデンの北部、北緯65.5°、北極圏の真近に位置し、本会議の主催団体の一つであるMEFOS (Metallurgical Research Plant, Metal Working Research Plant) の所在地である。ルレオは永い冬が終わって、一挙に春が来たのであろう、野山に花が吹き乱れる白夜の季節であった。

本会議の発表件数は50件、その内、大学および研究機関からのものが13件であり、産・学および、理論的研究と実践的なもののバランスの取れた会議であったといえよう。

理論研究について述べれば、日本の研究が普遍的な理論式の導出に主力が注がれているのに対し、諸外国のものは、観察結果、計算結果を並べたものが多く、Imperial Collegeでの研究をまとめたRobertson等の研究を除けば、注目に値するものは少ないように感じられた。

生産現場からの報告について、日本人参加者の意見を集約すると、(1)我が国で問題とする鋼の品質と諸外国のそれとは差がみられ、用途もおのずから異なるため、日本から提出された論文内容が十分参加者に理解され、関心を持ったか否か疑問である、(2)日本の現場からの報告は、いずれも、低硫、低りんを指向するもの

* 本国際会議出席にあたっては、日本鉄鋼協会日の方学術振興交付金が賦与されました。

** 名古屋大学工学部助教授 工博

表1 各国別登録者数

スウェーデン	102人	ベルギー	4人
西ドイツ	36	チエコ	4
アメリカ	25	デンマーク	4
フィンランド	23	コロンビア	3
イギリス	20	オランダ	3
フランス	18	インド	3
ノルウェー	17	南アフリカ	2
日本	12	ソ連	2
イタリア	11	オーストラリア	2
カナダ	10	アルゼンチン	2
中国	6	エジプト	1
中国(台湾)	4	スコットランド	1
オーストリア	8	イスラエル	1
スイス	6	韓国	1
スペイン	5	ユーゴ	1
ルクセンブルグ	4		

で、内容的に重複するという感は免れない、となる。レビューが江見(川鉄)とBackman(フィンランド)により行われたが、前者の講演は精練から材料品質に至る日本の広範囲な研究を網羅するもので、本会議の基調をなし、出席者の高い評価を得たものであった。

会議の運営については、発表件数が3日間で50件とやや多すぎたため、質問時間が十分取れず、出席者の意見交換がほとんどなされなかつた。しかし、コーヒープレイク、会食時などにおいて、個人的に講演者に接触する機会が多く、各国の研究者・技術者が一同に会し、たいへん和やかな雰囲気のもとで白夜を楽しむことができた。また、宿泊施設が3か所に限られていたことが幸いし、参加者の間で相当に突っ込んだ多岐にわたる議論が持たれ、親睦と合わせて国際会議の主要目的は十分達せられた。

なお、日本の一部の会社からの報告が代読でなされたが、不況下という事情があるにせよ、これはたいへん残念なことに思われた。本来研究は個人に帰属するものとの認識に立つならば、研究当事者を派遣していただきたいものである。代読が行われたのは日本と中国のみであったが、指導的立場にある日本からの論文が国際会議の場で代読されるということはいかかなものであろうか。

終わりに、今回の会議出席にあたり日本鉄鋼協会より日の方学術振興交付金が賦与されました。ここに深く感謝の意を表します。